

第3回

グローバルワークキャンプ IN ASO



報告書

Discover Your Next Change



2015年(平成27年) 8月16日(日)~8月19日(水)

実施会場：国立阿蘇青少年交流の家

主催団体：一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

(平成27年度青少年教育施設を活用した国際交流事業として実施)

目次

目的・概要	1p
スケジュール	2p
基調講演・アイスブレイク	3p
キャンプファイヤー・ユメノトビラ	4p
全体報告会	
そばうち体験・阿蘇火山博物館観光	5p
第1分科会：「平和」	6p
第2分科会：「国際協力」	7p
第3分科会：「ソーシャルビジネス」	8p
第4分科会：「貧困」	9p
第5分科会：「観光」	10p
写真で振り返る4日間	11-12p
実行委員会より	13p
アンケート結果	14p
関係者一覧	15p

事業概略

○目的

～人と人をつなぐ国際交流とグローバル社会における若い世代の人材育成～

グローバル化の進展やアジアを中心とした新興国のめざましい成長等、日本を取り巻く世界情勢は大きく変化しています。一方、大気汚染、紛争、貧困など地球規模の課題はまだまだ山積しています。今、世界全体の平和構築には、国単位の外交を超え、人と人が直接つながり、世界情勢の変化に対応、課題解決に向け、共生社会を推進していくことが必要です。

グローバルワークキャンプには国内外の大学生が集い、異言語・文化環境での対話や作業を通じた交流を図りながら、グローバル社会の中で必要とされる自己を発見していきます。

テーマ Discover your next change.

○概略

【期 間】2015年（平成27年）8月16日（日）－19日（水）3泊4日

【会 場】国立阿蘇青少年交流の家（熊本県阿蘇市一の宮町宮地 6029-1）

【参加者】88名

日本人大学生 41名

留学生 17名（大韓民国6名、バングラデシュ5名、中華人民共和国3名、ミャンマー2名、サモア1名）

海外の大学生 30名（4カ国、1地域）大韓民国20名（蔚山市からの交流事業として10名の大学生が参加）、台湾3名、タイ3名、モンゴル2名、インドネシア2名）

○主催

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

（平成27年度青少年教育施設を活用した国際交流事業として実施）

スケジュール

8月16日(日) 初日

- 08:00 大分(APU) 出発
福岡(博多駅前) 出発
- 10:00 熊本市国際交流会館 出発(3ヶ所より貸切バスで出発)
- 11:30 国立阿蘇青少年交流の家 到着
- 12:00 昼食
- 13:00 開会式・基調講演
- 14:30 アイスブレイク
- 16:00 分科会活動①
- 17:30 タベの集い
- 17:45 夕食・入浴
- 19:00 キャンプファイアー
- 22:30 就寝

8月17日(月) 2日目

- 06:00 起床・清掃
- 06:45 朝の集い
- 07:00 朝食
- 09:00 分科会活動②
- 17:30 タベの集い
- 17:45 夕食・入浴
- 19:00 ユメノビラ
- 22:30 就寝



8月18日(火) 3日目

- 06:00 起床・清掃
- 06:45 朝の集い
- 07:00 朝食
- 09:00 分科会活動③
- 17:30 タベの集い
- 17:45 夕食・入浴
- 19:00 全体報告会
- 22:30 就寝



8月19日(水) 最終日

- 6:00 起床・清掃
- 6:45 朝の集い
- 7:30 朝食
- 9:00 閉会式
- 10:00 国立阿蘇青少年交流の家 出発
- 11:00 蕎麦打ち体験
- 13:30 阿蘇火山博物館見学
- 15:30 観光地出発
- 17:00 熊本市国際交流会館 到着・解散
- 19:00 大分 到着・解散

基調講演ではコムスタカ代表の中島眞一郎氏から講演をしていただきました。

中島氏は「コムスタカ 外国人と共に生きる会」の代表をされており、主に移住女性の人権相談を中心に活動されています。今回は「在住外国人の人権相談の現場からみた外国人の人権」についてお話をしていただきました。



現在日本に暮らす外国人の方は2014年で212万人です。以前に比べてアジア出身の定住者の方が多く、特にフィリピン・ベトナムの方々が増加しています。

熊本県にいる外国人について見ていても出身国はアジア中心で、中国、フィリピン、韓国の順に多く、特に技能実習生として来ている方が多いとのことでした。しかし、ある実例として、年に3日の休みしかもらえない、朝の8時から夜の12時まで働かされる、時給に換算すると300円の給料しかもらえないということがあったそうです。さらに給料から3万円を会社の運転資金と差し引かれ、最後に返還するとなっていたそうですが、返ってこなかったこともあったそうです。また、技能実習生への給料未払い問題等があり、コムスタカが救済した事例についてもお話していただきました。

日本は暮らしやすく、人がいいというイメージが私の中でありましたが、外国人だからといって差別を受けているというお話を聞き現実を目の当たりにしたことで深い悲しみを感しました。これからの日本は技能実習生をはじめとする外国人の受け入れについてよく考え、他の国での取り組みを学び取り入れていく必要があるように感じました。日本に暮らす外国の方が不安なく暮らせるようにコムスタカのような外国の方への支援をしている団体の必要性を感じました。

外国人も日本人と同じように安心して幸せに暮らせる社会になってほしいです。



アイスブレイクは参加者の緊張をほぐし、約100人の人たちと仲良くなる目的のために行いました。この時間をより良いものにするため、目標を2つ設定しました。1つ目は、参加者と実行委員合わせて約100人いるので、より多くの人と触れ合うことができるようにすること、2つ目は、会話をしたり、参加者同士の距離を縮めるためにゲームを通して楽しさや達成感などを共有できるようにするという事です。

最初は、ほとんど全員がお互いの名前も知らず緊張している状態だったので、前後左右の近い人と関わる「トントン肩たたき」をして緊張をほぐしました。その後、「真似っこ」、「ハイタッチ自己紹介」、「人間知恵の輪」と、参加者同士で仲良くなり会話が増えるようにしました。各ゲームに必ず実行委員を参加者に混ぜて、全員を巻き込み、みんなで楽しめるように工夫しました。

アイスブレイク中の参加者の様子は、最初の「トントン肩たたき」では恥ずかしがっていた参加者も多くいましたが、前の人、後ろの人、と回数を重ねるごとに参加者の笑顔が増えてきて、参加者が楽しんでいると感じ、私の緊張もほぐれました。参加者だけが楽しむのではなく、実行委員も参加者と一緒にゲームをして楽しむことで参加者と仲良くなったり、場を盛り上げたりすることができました。自分達が楽しむことによって、より参加者も楽しむことができるのではないかと思います。私自身もとても楽しみながら説明やゲーム等を行いました。アイスブレイクが終わる頃には参加者同士の距離や参加者と実行委員の距離も縮まり、お互いが打ち解けあう機会、個人個人の友達の輪をさらに広げることができ、当初の目標を達成出来たと思います。



今回ユメノトビラでは、参加者全員が参加するワールドカフェを行いました。企画進行の都合上、全体を無作為に半数に分けてフィールドを2つ作り、それぞれにメインとなるファシリテーターを実行委員から2人設置しました。また進行の補助として、その他の実行委員は会場内を自由に動き、参加者が発言しやすいような雰囲気作りをしてもらいました。1つのグループサイズは5名から7名で、各テーブルには模造紙とマジックペンを置き、話し合いの中で出た意見などを気軽に書きとめられるようにしました。ワールドカフェの最大の特徴とも言える、テーブル間の移動(ラウンド)は、合計で6回行い、できるだけ満遍なく、多くの参加者と話し合いができるようにしました。

本企画の狙いは、「自己表現と他者理解を繰り返すことで、大きな学びの場にする」としており、今後の人生設計を行う上でも、同じ世代の若者の異なった意見、価値観、考え方は非常に良い刺激になりました。

テーマとして掲げたのは、「あなたの将来の夢はなんですか?」「あなたの理想とする、将来の人生(ライフスタイル)は、どのようなものですか?」という2つのテーマです。

文化的背景や、価値観の異なる人と夢について語り合い、言葉にして伝えたり、文字や絵にして紙に書くことで自分の夢を改めて見直すことが出来たり、他の人の夢を聞くことで

これまで思いもなかったような新しい視点を得ることができ、非常に多くの刺激を受けることができました。

100人で夢について語り合う経験、考え方などはとても印象に残りました。参加者にとっても、実行委員にとっても、非常に有意義な時間になりました。



1日目の夜はキャンプファイアーを行いました。これの実施にあたり、薪の周りを囲み、同じ時間、空間を共有することで親睦を深めること、様々な国や地域の文化に触れることを目的にしました。

日が暮れ始めたころ、トーチを手に持った火の神と彼の仲間たちが颯爽と入場するところからキャンプファイアーは始まります。まだ初日ということもあり、緊張した面持ちの参加者でしたが、仮装したメンバーを見ると次第に表情もほぐれてきたようでした。全員が会場入りし、火の神が点火した後、まずレクリエーションゲームを行いました。競争的要素のあるゲームにしたため、ルールを飲み込んだ参加者たちは熱中して楽しんでいるように思われました。

次のプログラムはダンスです。1曲目は熊本伝統の踊りで比較的リズムに乗りやすい“サンバおてもやん”にしました。曲がかかってすぐは眺めていた参加者も、次第に輪の中に入っていき曲の終盤にはみんな笑顔で踊っていました。サンバおてもやんが終わると故郷の伝統的なダンスを披露したいとの声があったため、モンゴル、インドネシアのダンスを鑑賞しました。それぞれ、リズムも動きもまったく異なるダンスでしたが、澁刺としたキレのあるダンスに、自分を含め全員が息をのんで見つめていました。

伝統的ダンス鑑賞のあと、最後に“くまモン体操”を全員で踊り、盛り上がりがピークに達したころ、キャンプファイアーは締めくくられました。予想以上に火が燃え盛ったことから一時はどうなることかと思われましたが、無事2点の目標を達成し、2日目以降の精力的な活動の着火剤となったのではないのでしょうか。



3日後の午後、昨年と同様に回遊型ポスターセッション方式で分科会の「全体報告会」を実施しました。自分たちが参加した分科会での活動や過去の経験、分科会を通し学んだ知識などを他の分科会の参加者に発表しました。言語や文化が異なる参加者が混在する中での発表だったため、発表者達は協力し合い日本語、時には英語や韓国語を用いての発表でした。聞く側も参加者同士で助け合い、発表が終わると発表者に質問や自分の体験談、文化なども話したりと意見を交換し合い、お互いに理解が出来る機会となったと思います。全ての発表が終わると分科会ごとに分かれ、それぞれ発表してどんな意見や質問が出たのか、それについてどう思ったのかを共有し合いました。

この報告会について参加者からは、発表する立場になって、自分の意見や考えをそれぞれ文化の違う聞き手に理解してもらう為に発言する事の難しさを身にしみて感じた、ポスターセッションということで他の分科会の内容や考えをたくさん聞いて良かった、関わらなかった分科会のことでも少しではあったが知ったことで新たな知識にもなったし、もっと知りたいと思うことができた、などと感想をいただきました。

4日間というキャンプで、分科会の活動は約2日間でした。短い期間ではありましたが参加者同士が異文化の壁を乗り越え、お互いに真剣に考え一体となり意見交換ができたことは素晴らしい成果となるでしょう。今回のテーマ「Discover your next change」がありましたが、すべての分科会でテーマにそって活動ができていたことと思います。普段の生活では気がつかなかったことやキャンプに参加してわかったこと、今回学んだ知識を、単に学んだ知識として残すのではなく、自分で掲げた目標などを次のステップとして繋げていってもらえたら嬉しいです。



最終日は1日使って観光に行きました。前年までは熊本からの留学生しか体験できなかった蕎麦打ちをみんなで体験しました。波野はそばの産地として有名な町であり、たくさんの蕎麦処があります。その波野にある、やすらぎ交流館にて100名の参加者を受け入れていただきました。蕎麦打ちの先生たちから指導を受けながら作業をスムーズに進めることが出来ました。韓国語や英語への訳まで考慮して指導をしていただき、参加者も和気あいあいとした雰囲気でした。自分自身蕎麦打ちが初めての経験で、水を入れる量がわからずに戸惑ったり、蕎麦を切っていく包丁の大きさにびっくりしたりしましたが、先生方の指導のおかげでも楽しむことが出来ました。



蕎麦打ち体験の後、阿蘇火山博物館へ向かいました。現在の阿蘇山は火山活動が活発化していますが、残念ながら火口へ近づくことは出来ませんでした。博物館でその歴史や仕組みについて学ぶことが出来ました。阿蘇のカルデラは世界最大級であり、阿蘇ジオパークに含まれています。博物館では3つのグループに分かれ、館員の方に阿蘇

のカルデラの形成の歴史や岩石の種類など詳しく説明をしていただきました。特に火山噴火の仕組みについては風船と小麦粉を使った実験を伴っての説明で、とてもおもしろく、分かりやすかったです。阿蘇のカルデラについては何度か知る機会があり、多少知識がありましたが、視覚的なイメージを持つことで強く記憶に残すことが出来ました。今後また火口まで行くことができるようになったら行ってみたいと思いました。



この分科会は戦後70周年という節目の年に普段あまり話題にすることのない「平和」というテーマについて話し合おうという目的で行いました。

1日目は自己紹介を交えたゲームを行い、これから活動を共にする仲間と交流を深めた後、分科会活動の趣旨や流れを説明しました。2日目からは具体的に平和についてグループで話し合い、出た意見を全体で共有しました。一番初めに行った平和のイメージを出し合うワークでは、鳩や握手など色々な意見が出てきました。その次に、長崎、広島、熊本の3つの地域で行われている平和教育を紹介し、それを基に参加者間でこれまでに経験した平和教育について話しました。例えば大分では地元に関する戦時中の歴史を詳しく学ぶことや、逆に韓国では平和学習は全く行われていないなどの意見が出ました。平和についてさらに深く考える時間をとり、それぞれのグループ内で平和という言葉を根本から考えたため、まとめるのに苦労していたようでしたが、争いがない世界やみんなが笑顔で過ごせる世界など、グループごとのそれぞれの結論が出てよかったです。

3日目は午前中にピザ作りを行いました。食べ物の好き嫌いや宗教上食べられないものがあるなどの意見を聞きながら協力してピザを作りあげました。実はこれには次の活動の、“平和になるために何ができるか考えるワーク”のヒントになればという実行委員の狙いがありました。そのワークは平和な世界をイメージするものでした。中でも全世界の人が理解できるアラビア数字を入れた、世界の国境をなくし様々な人種の人々が並んでいる地球を掲げているという場面を描いた絵は私達が想像できないような素敵なものでした。1人の参加者が言った、違う国や文化を持つ私達が話しあったり協力してピザを作ったりするこの場こそが平和なのではないか、というまとめには皆で共感することができました。

平和というテーマはとても大きな問題ですぐに答えの出るものではありませんが、私達が考えていくべき重要な問題の一つであるように思います。この3日間は私達が平和に対する考え方に変化を起こしたのではないのでしょうか。



この分科会は、同世代の私たちが世界中の諸問題をどう捉えているのか、その問題意識を共有することで、新たな視点を養い、私たちに出来ることを考えることが目的で始まりました。

1日目は、簡易的に現在の国と国との関係性を考えてもらうために、4つの班ごとに架空の国を設定し、それぞれの国が持つ条件の中で、できるだけ多く富を稼ぐことを競う貿易シミュレーションゲームをしました。模擬的に、先進国と途上国の技術、資源などの格差を体感してもらいました。事前の話し合いではみんな理想論ばかり上げていましたが、実際にゲームを始めると協力することを忘れ、自国の繁栄にばかり目がくらんでしまいました。貧困国チームでは植民地になってもいいからお金がほしいという意見が出たり、先進国チームでは協力や援助をせず自国のみで発展したいという意見が出たりしました。

2日目のはじめは前日の4つの国に分かれてワークをしました。自国をよりよくするためにはどうすれば良いか考えてもらうために、自国の問題点だけでなく、他国の問題点も考えました。協力するために国ごとの話し合いの場として、グローバルワークキャンプサミットを開催しました。その後、現実の自国はどうかについて考えてもらいました。話し合いの結果一番大切なのは「学習できる環境が整うこと」ではないかという意見に皆納得しました。学習できる環境があれば、暴力や盗みに頼らず、協力して生きることの重要性を学べるのではないかということでした。

また、1日目と2日目の両日、国際協力という題を聞いて思いついた言葉を繋げたり、言葉同士が関連するときは線で結んだりする「ウェビング」をしました。国際協力と聞いて浮かぶ言葉の変化や増加を感じてもらうためにしました。

この2日間の分科会で現在の世界のリアルな国同士の関係性、格差について実感しました。当事者意識を持ちつつ、問題に対して自国の出来ることは何か考える機会を持つことができました。

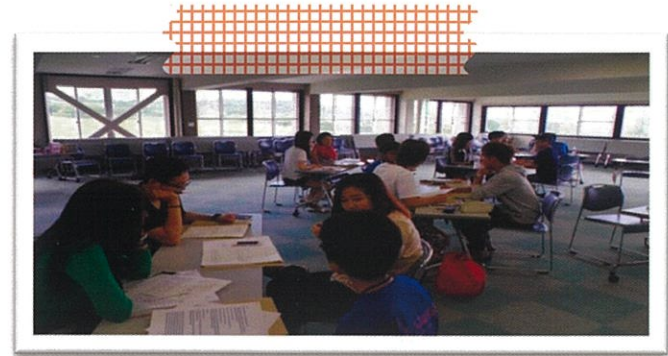


この分科会はソーシャルビジネスをテーマに、現代の社会問題を若者なりに捉え、行政の仕組みやボランティア等ではケアできなかった部分を見つけ、現状を深く理解することを目的としました。また、これらの社会問題をソーシャルビジネスの形で解決することで若者の新しい価値意識を確立することを行いました。

2日目はソーシャルビジネスの仕組みやグラミン銀行を用いた勉強会を行った後、グループに分かれて意見を共有し、実際に社会で行われているソーシャルビジネスについて調べました。3日目は、前日の振り返りを行った後、こちらから現代の社会問題を13の項目にまとめたものを提示し、グループごとに選び、その項目の問題点を思いっ限り提示することにより、現代社会の問題を理解しました。そして一つの問題を取り上げて、各グループオリジナルのビジネス案を作りました。

参加者の皆さんからは最初、説明を聞いた時には自分たちでビジネスを考えるのは難しいのではないかという意見もありましたが、「2日間を通して自分の周りで起こっている問題を考える良いきっかけになった」、「日本や自分の国だけで考えていた問題も、世界各国の皆さんと比べると様々な考え方があり面白かった」、「様々な言語を学ぶことの重要性、世界に目を向ける、視野を広げるきっかけになった」、「いろんなところに行って自分の目で見たくなったなど嬉しい変化があった」等の意見が出されました。

今回ソーシャルビジネスをテーマに分科会を行いました。現代の社会問題やソーシャルビジネスを学んでいく中で、労働の意味や自分が今後、社会に出てどのような行動をすべきかなど、様々な国の仲間たちと一緒に考えることのできた貴重な機会となりました。



第4分科会 貧困

青山学院大学2年 江藤峻 明治大学2年 福永健人

第4分科会では、貧困問題について日本人学生と留学生と共に考えました。「貧困」は発展途上国だけの問題に留まらず、先進国である日本においても存在しています。なぜ豊かだと思っていた日本にも貧困が存在するのか、驚きとともに興味を持ち、様々な種類の貧困について共に考えることを目的としてこの分科会を行いました。

まず、「貧困」という言葉から連想されるものをブレインストーミングし、イメージの共有をしました。その後、参加者それぞれの出身国における貧困について話し合いました。今回は日本、韓国、タイ、中国からの参加者がいたため、それらの国の貧困問題を他国の学生は知ることができました。貧困層と富裕層の格差が大きいから貧困という概念が生まれるといった意見や、所得と税金の関係についての意見、政府からの補助についての意見など多種多様な意見交換がなされました。次に、「貧困の輪」というワークを行いました。貧困の輪とは、貧困に関する8つの単語を並べかえ、輪を作ることで貧困の連鎖を体感してもらうというものです。各グループで単語の順番がまったく異なる輪ができましたが、どの連鎖も理にかなっており、貧困というものの複雑さを感じることができました。その後、貧困問題を考える上で重要な指標などについて参加者と考えました。普段聞き慣れない用語が多くありましたが、これによってマクロな貧困問題を多面的に考えることができるようになりました。最後に、この活動の集大成として具体的に様々な国の貧困についてグループ毎に考えました。人口や国土面積、出生率といった基本的なものから貧困指標や貧困ラインなどの専門的知識を要するものまで、様々なデータを用いながら各国が抱える問題点などを探し出し、その原因や解決策をグループ内で話しあいました。それらを終えた後、意見の共有を行い、各国の貧困問題の共通点や相違点を考えました。

先進国では経済格差による貧困が主であり、政府からの支援が行われているとはいえ十分とは言いがたい状況にあること。アジアやアフリカの発展途上国では農業知識や技術が乏しいことによる貧困に陥りやすいため、特に民間やボランティアなどの活躍が望まれる事などが発見されました。この分科会を通して、単に貧困といっても様々な形態のものがあること、貧困解決への万能策など無いことなどを学び、多角的視点から物事について考えることができるようになったように感じられました。



第5分科会は、ECが全員旅行するのが好きで、旅行先で経験した不便をどうにかできないかという思いから「観光」をテーマに決め、みんなでよりよい観光について考えることになりました。

まず「観光(旅行)をするのは好きか?」、「観光をしている時に不便を感じたことはあるか?」など、一人一人の意見や経験を、ワークシートを使い共有しました。ここでは、日本人が気づかないような日本の不便な点(例えば、¹「銭が多いなど)を外国人参加者から聞くことで、様々な文化や価値観の違いを見つけることができました。そのあとその経験をもとに、国籍問わず多くの観光客が満足する観光地にするにはどうすればよいか、何があればよいか、を考えチェックリストを作成しました。また、観光客の受け入れに携わっている阿蘇火山博物館の溝口さんと、熊本市内で中国人観光客の現状に詳しい谷尾さんから現場のお話を聞き、観光について理解を深めました。3日目は実際に観光地である「阿蘇 道の駅」と「大観峰」に行きました。そこでは観光しながら、作成したチェックリストを用いて看板や設備、スタッフの対応など細かなところを視察しました。参加者は、例えば「挨拶を返してくれるか」という項目を調べるためにすすんでスタッフの方々に挨拶をしたり、気づいた物の写真を撮ったりと一生懸命取り組んでいました。阿蘇青少年交流の家に戻ってからは、それぞれ見つけた所を出し合い、改善策を話し合いました。そして報告会に向けて5つの班に分かれて結果をまとめました。その中でも「フリーWi-Fiをつなぐ」、「看板を多言語化する」といった改善策が多かったです。Wi-Fiの件については、報告会でも同意見の方々を多く見られました。

私たちは普段、観光をする上で、不便だなと感じることがあっても、それを自分たちで改善しようと思うことは少ないと思います。しかしこのグローバルワークキャンプを通して海外の学生と一緒に話し合うことで、観光をいつもと違う視点から見つめ考えることができ、観光についてもっと視野が広がったと感じました。





熊本市国際交流会館
熊本市国際交流会館
KUMAMOTO CITY INTERNATIONAL CENTER
INTERNATIONALES ZENTRUM DER STADT KUMAMOTO
구마모토시국제교류회관

OUR PRECIOUS MEMORIES

AUGUST 16TH, 17TH, 18TH, 19TH



こんにちは、実行委員長の岩木です。たくさんの方々のおかげで第3回グローバルワークキャンプを無事終わることができました！ありがとうございました！

第3回グローバルワークキャンプは日本人参加者41名、外国人参加者47名、総勢88名で行われました。参加者は「平和」、「国際協力」、「ソーシャルビジネス」、「貧困」、「観光」の5つの分科会に分かれて話し合い、お互いの意見を共有して、とても有意義な時間を過ごせたのではないかと思います。

今回のグローバルワークキャンプのテーマは「Discover your next change」でした。テーマにはこの経験によって参加者に新しい「変化」が起こり、それに気づいてもらいたいという思いを込めました。結果として、国籍や文化、言語を超えてコミュニケーションを試みるようになり、最後には別れを惜しむ涙を見せるほどに絆を深めることができ、少しはこのテーマを達成できたのではないかと思います。そして何より参加者同士がそれだけ仲良くなってくれたこと、自分で一歩を踏み出す姿が見られたことが実行委員として1番嬉しかったです。

これからの世の中はさらにグローバル化が進み、例えば日本にいたとしてもたくさんの外国人がやってくるでしょう。そんな時、このグローバルワークキャンプに参加したときのことを思い出して、今回の経験が少しでも参加者がグローバル社会で生きていく力になればと思います。

グローバルワークキャンプの目的は「グローバル人材の育成」です。参加者が「グローバル人材」に近づけたかどうかは視覚的に判断が難しく、またグローバル人材に対する認識も個々人で異なります。

しかし、私個人の感想としては今回の参加者はお互いの文化や言語の違い乗り越えて互いに理解し合おうとしているように見えました。その点では、「グローバル人材」に一歩近づけたのではないかと思います。



これから第4回、第5回と回数を重ねるにつれてメンバーも変わっていくと思いますが、その年ごとに少しずつグローバルワークキャンプが成長していき、さらなる国籍・文化を超えた出会いや交流のきっかけとなれば、グローバルワークキャンプに関わった者として誇りに思います。

最後になりましたが、このキャンプに関わってくださいました協力者・協力団体の皆様、そして、私たち実行委員にこのような貴重な経験の機会を与えてくださいました熊本市国際交流振興事業団の皆様から感謝申し上げます。これからもこのイベントがグローバル人材の育成に貢献していくことを願います。

ありがとうございました。

実行委員募集！

第4回グローバルワークキャンプの実行委員を募集中しています！
会議は月に1度、九州のどこかで観光も含めて行いたいと思っています。
第3回の際は、熊本、大分、福岡、東京で行いました。遠い方でも Skype で会議に参加することができます。九州から遠い方も大歓迎です！

去年は鳥取や東京のメンバーもいました。
大変な経験をすることもありますが、それ以上に楽しい経験ができます！

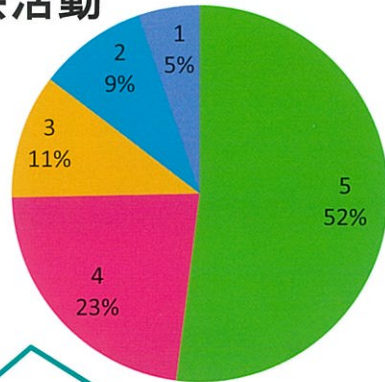


興味のある方は是非、下記のアドレスに連絡をください。お待ちしております☆

E-mail pj-info@kumamoto-if.or.jp (熊本市国際交流振興事業団宛)

アンケート結果

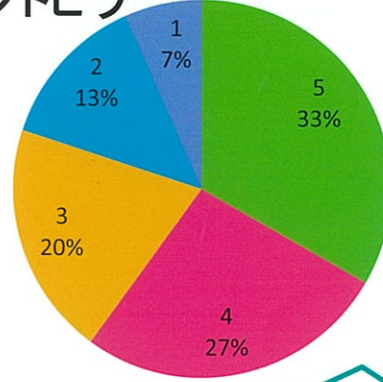
分科会活動



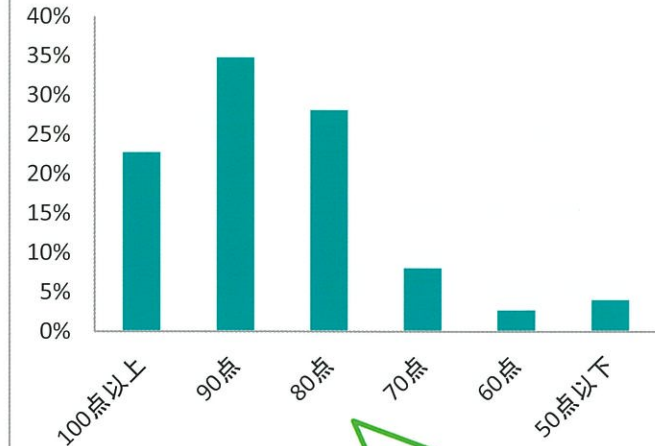
ユメノビラ

満足度 (5点満点)

- 5 満足
- 4 ↑
- 3 ふつう
- 2 ↓
- 1 不満



キャンプ全体の満足度



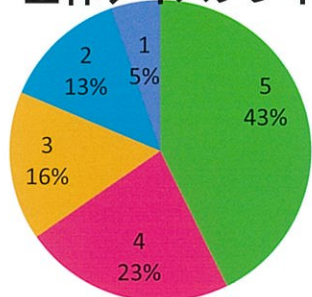
- ・多くの経験ができて、知識を得ることができた。
- ・自分にはないアイデアや考えを知れて、これからもずっと付き合いたい人たちに出会えた。
- ・問題点とその解決について、違う国、文化、価値観を持った人たちと話し合った経験は大きいと思った。

- ・みんなの素敵な夢を聞いて幸せになり、刺激になった
- ・言葉が通じなかったところもあったけど、身振り手振りでつながることができた。
- ・新しい人と話せる素晴らしい機会だった。

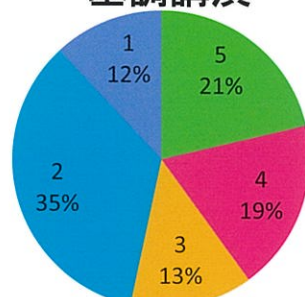
あなたの『変化』は何ですか？

- ・コミュニケーションが積極的にできるようになった
- ・何でも前向きに取り組めるようになった
- ・たくさんの外国人の友達が出来た
- ・もっと言語が出来るようになりたいと思った
- ・尊敬できる人ができた
- ・自分に自信が持てた
- ・人脈が広がった
- ・韓国をはじめとする東アジアの文化を知ることができた

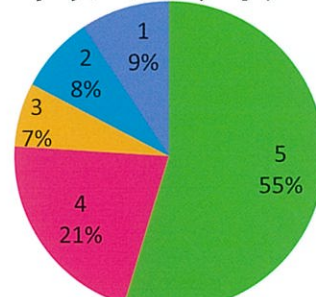
全体アイスブレイク



基調講演



キャンプファイアー



関係者一覧

助成団体(順不同)

- ・熊本ユネスコ協会

協力者(五十音順)

- ・大野 章子氏 (JICA 国際協力推進員)
- ・木下 俊和氏 (元 JICA 国際協力推進)
- ・高見 大介氏 (日本文理大学)
- ・谷尾 陽子氏 (熊本市国際交流振興事業団中国語相談員)
- ・中島 眞一郎氏 (コムスタカ代表)
- ・橋村 隆介氏 (熊本ユネスコ協会 副会長)
- ・溝口 千花氏 (阿蘇火山博物館)
- ・山川 貴裕氏 (熊本学園大学大学院)

協力団体(順不同)

- ・日本文理大学 ・立命館アジア太平洋大学
- ・熊本留学生交流推進会議

実行委員会メンバー

- 岩木陽平 (鳥取大学)
- 松浦咲子 (長崎大学)
- 田脇花倫 (長崎大学)
- 木下めい (福岡女子大学)
- 入江誠也 (九州国際大学)
- 岩男咲子 (筑紫女学園大学)
- 福永健人 (明治大学)
- 江藤峻 (青山学院大学)
- 川口颯 (日本文理大学)
- 大戸俊輔 (日本文理大学)
- 後藤和典 (日本文理大学)
- Abir Siddiky (立命館アジア太平洋大学)
- Piash Islam (立命館アジア太平洋大学)
- 薫翠 (熊本大学)
- 濱岡史圭 (尚綱大学)
- 中野桃子 (熊本外語専門学校)
- 山下香織 (熊本学園大学)



Facebook の方も見てみてね
<https://www.facebook.com/globalworkcamp.aso>

